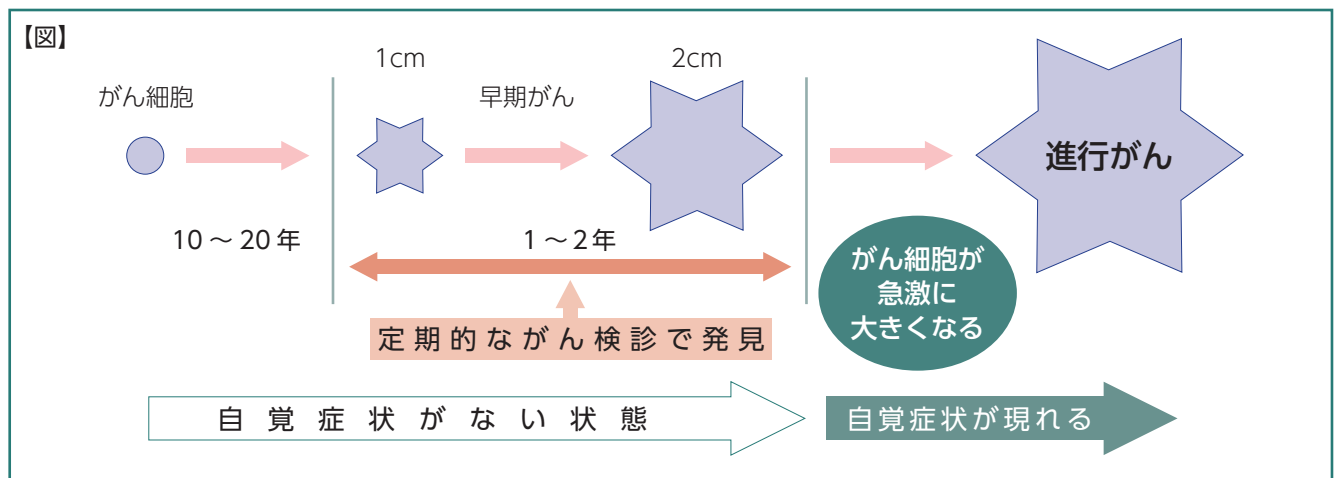


がんから命を守りましょう！

閩ふれあいセンター TEL 52-2000

がん治療で大切なのは「早期発見・早期治療」！

がん細胞は発生から10～20年かけて検診で発見できる大きさ（1cm大）になりますが、この時点では自覚症状はありません。そこからさらに1～2年で1cm大から2cm大の大きさになり、2cm大を超えると急激に増殖し「進行がん」となり、自覚症状が現れるようになります（図）。がん細胞が1～2cm大の「早期がん」と言われるうちに早期発見・早期治療することで完治も可能です。早期発見のためにはがん検診を受診する必要があります。



がん検診など 必要な受診を控えていませんか？

市の各種がん検診の受診率は、新型コロナウイルス感染症発生前（令和元年）と発生後（同2年）を比較すると減少しています。また、全国のがん診療病院においても、新型コロナウイルス感染症の発生前後では、集計対象施設数が増えているにもかかわらず、がんと診断された方の登録件数は5.5%減少しており、早期がんをはじめとしたがんの診断件数も減少しています。これらの傾向から、新型コロナウイルス感染症の流行によりがん検診や医療機関の受診を控えたものと考えられますが、自覚症状のないがん初期段階の方が検診を受診していないために発見が遅れ、症状が現れてから医療機関を受診して発見されることが懸念されます。

がん検診
受けようかな…？



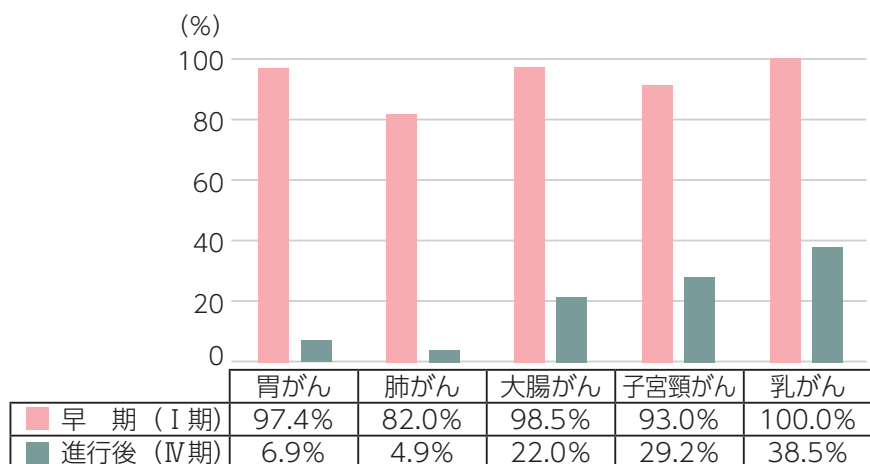
もっと早く検診を
受けていれば…

自覚症状が現れてから医療機関を受診

がんが進行する前に！定期的な検診を！

がんは日本人の2人に1人が生涯のうちに罹患し、3人に1人ががんで死亡すると言われています。誰でもがんにかかる可能性があります。早期発見・早期治療により多くの場合は助かることがわかっています（グラフ）。

がん検診や医療機関などへの必要な受診は不要不急の外出にはあたりません。コロナ禍でもがん検診を受診することはとても重要です。各検診会場や医療機関ではさまざまな感染症防止対策を講じていますので、定期的に検診を受けましょう！



自分に「がん」の心配がないか確かめるためにも検診を受けてみよう！

早期に「がん」が見つかり生存率が高くなります！



【グラフ】病気による5年生存率の差（平成20年～同22年診断症例）

※全国がん協会加盟施設の生存率共同調査による病期別の5年相対生存率のデータから作成

がん検診の受け方

①ふれあいセンターで受ける（集団検診）

胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がんの各種で検診日が決まっています。広報すながわ4月1日号折り込みの「砂川市各種健（検）診等の日程表」でご確認ください。

②個別に病院で受ける（個別検診）

◆市立病院で受ける

→乳がん、子宮頸がん、大腸がん検診を通年で受けることができます。受診希望日の2週間前までにふれあいセンターへ申し込みください。

◆市内の個人病院で受ける（国保加入者のみ）

→大腸がん・前立腺がん検診を通年で受けることができます。受診希望の医療機関へ直接申し込みください。

③無料クーポン券を使って受ける

下記の対象年齢の方に乳がん検診または子宮頸がん検診の無料クーポン券を郵送しています。受診の方法については同封の案内をご確認ください。

【無料クーポン券対象年齢】※年齢は令和4年3月31日現在。

- ・子宮頸がん検診：21歳、26歳、31歳、36歳、41歳
- ・乳がん検診：41歳、46歳、51歳、56歳、61歳